

みらいへ
北九州の戦中戦後



We Remember You



はじめに



1999年、カリフォルニアに住むアメリカ退役軍人ドナルド・ヴァーソーさんとアメリカでの音楽活動を通して知り合いました。彼は太平洋戦争中、捕虜として飯塚の炭鉱で労働していました。2011年、ふとしたきっかけで、2010年秋当時89歳の彼が日本政府の元米兵捕虜招聘プログラムで来日した事を知り、彼がまだ生きている事を知りすぐに関係団体へ連絡をしました。インターネットで捕虜の事を調べると、彼らは南方から船で運ばれ多くが門司から入り、生きて門司に辿りついた捕虜はそこから全国の収容所に送られました。全国で最も多くの捕虜が亡くなった場所が北九州でした。

この事がきっかけとなりあの戦争の事を調べ始めると次から次に知らなかった出来事、地名や名前が出てきて興味は尽きず、夜な夜な布団の中でiPhoneを握り検索をしました。

東南アジアやシベリアには今も日本に帰れない日本人のご遺骨が100万柱以上ある事を知り「遺骨収集」というもの体験してみたいと思い登山家野口健さんが行う沖縄遺骨収集に参加してみました。外務省とオランダ政府により行われる水巻町でのオランダ人招聘プログラムに参加し太平洋戦争でなぜオランダやインドネシアが関係していたのか知りました。1950年に始まった朝鮮戦争では北九州が最も釜山に近く多くの兵士が北九州から韓国に渡り亡くなった事や、朝鮮戦争によりとても大きな経済効果があったと知りました。何かを知るとその事をきっかけにまた解らない事が出来ては検索をし、気付けばあの時代の歴史がパズルのように埋まって行きました。

様々な角度からの太平洋戦争(大東亜戦争)を知り、あの時代の北九州を知り、私の命が多くの偶然によりかろうじて繋がれた事や私たちの世代が忘れてしまっている沢山の歴史や命がある事を知りました。北九州市50周年の節目に20～40代の人たちがあの時代の歴史や命を知るきっかけになるような冊子を作りたいと思いました。

この冊子は第二次世界大戦以降を主に取り上げていますが、歴史を細かく説明していません。戦争はそれぞれの国や立場により、情報、思想、経験、想いなどが全く異なります。気になる単語や出来事があれば、PCやスマートフォンで検索してください。その先でまた知らない事を見つけたら、また検索をしてください。

ニューヨークに7年住み、その後バックパックを担いでインド・東南アジアを放浪し、首都圏に12年住んだ私は、今、日本と世界と私が生まれ育った北九州の歴史に夢中です。北九州に軸を置き、時代・世代、国境を越えて世界中の人々に繋がっています。

北九州市制50周年おめでとうございます。

2013年2月10日

Angels Swing 白石昌子(Seina)

Shoko "Seina" Shiraiishiプロフィール

～1930-40年代のアメリカン ジャズ/ポップ、特に第二次大戦時のバラードソングを得意とする歌手～

◆1989年：渡米。ニューヨークにて歌を学び始める。◆1996年：スイングバンドのボーカリストとしてニューヨークのレストランやイベントに数多く出演。多くの往年ジャズミュージシャンと共演。◆1997～1999年：「I Have a Dream...Seina/The Songs for Nursing Homes in the US」第二次世界大戦時代を生きたアメリカ人ミュージシャンと共にその時代の歌で綴った自主制作CD制作し全米3500カ所の老人ホームに贈り数多くのメディアに掲載される。その後音楽活動から離れる。◆2008年：「I'll Be Seeing You, Mr. Leonard Gaskin」恩師レナード・ガスキン氏を訪ねニューヨークの老人ホームにてコンサートを行い日米のメディアに掲載される。◆2011年：音楽活動を再開。ニューヨークにてセカンドアルバム「Thanks For the Memory」を世界のトップジャズミュージシャンのサポートにて録音。◆2012年：北九州芸術劇場にてコンサートを開催。福岡アメリカ領事館主催、第236回アメリカ独立記念日式典にて日米国歌独唱。「JEEP」TV番組、ウェブマガジンにて「REAL」な生き方を取り上げられる。



「スタンダードポップスへの愛情と敬意があふれています。そして、さすがにハスキーな彼女の声は非常に可愛いと思いました」作家 村上龍

「彼女はソウルフルなシンガーだよ」ジャズドラマー・歌手 グラディ・テイト

「Seinaの声は本当にラブリーなの。彼女のジャズ・ポップミュージックへの愛情はその時代に生きた人には明らかに伝わってくるわ」歌手・ハリウッドスター モニカ・ルイス



<http://angels-swing.com>

「Angels Swing」はSeinaにたくさんの出会いと喜びを与えてくれた1930～40年代のアメリカンミュージックとSeinaがつくりだすプロジェクトです

戦争史と北九州周辺の出来事.....02

小倉陸軍造兵廠.....03

門司：出征・空襲・連合軍捕虜.....05

八幡大空襲 1945. 8. 8.07

原子爆弾・小倉上空 1945. 8. 9.....08

朝鮮戦争とメモリアルクロス.....09

世界平和パゴダ.....11

オランダ人元捕虜と水巻町の友情.....12

みらいへ.....13

戦争史と北九州近辺の出来事 山本昭生

主に日本国が関わった戦争と当時の北九州の環境は以下の通りである

- 1863 下関外国船砲撃事件、高杉晋作、奇兵隊組織。
- 1864 英、仏、オランダ、米国4国連合艦隊、下関砲撃。
- 1875 乃木希典(のちの大將)が第14連隊を率いて小倉に赴任。秋月の乱、萩の乱を鎮圧する。
- 1894 日清戦争。主に朝鮮半島をめぐる日本と清国の戦争。日本優勢の中で締結された講和条約により清国は賠償金を支払う。この賠償金(当時のお金で約3億円)を使って日本政府は福岡県八幡村に官営の製鉄所を建設した。八幡製鉄所の誕生である。
- 1898 小倉に第12師団司令部開庁。翌年 森鷗外軍医部長着任。
- 1904 日露戦争。日本とロシアとの間で、朝鮮半島と満洲を主戦場とした戦争。小倉から第12師団が出兵。
- 1914 第一次世界大戦。人類史上最初の世界大戦。
- 1931 満州事変。日本軍国主義化の推進。門司港から出征兵士の歓送。
- 1933 陸軍造兵廠小倉工廠開庁。北九州は軍需工場の一大拠点となる。
- 1937 日中戦争勃発。日本と中国は全面的な戦争状態となる。戦時統制に移行。中国に近い北九州に全国から兵士が集結した。北九州市内では軍需関連工場の新設と拡張が続く。
- 1939 第二次世界大戦。
- 1941 12月、日本が太平洋戦争(大東亜戦争)に突入。
- 1943 門司港から入国した連合軍捕虜が福岡県内各地で就労。門司YMCAが捕虜収容所となる。
- 1944 小倉到津遊園では動物を処分、農園となる。戦争末期、北九州5市は疎開都市の指定を受け学童は宗像郡や京都郡に疎開する。6月、八幡製鉄所が本土で初の空襲を受ける
- 1945 8月、広島と長崎に原爆。太平洋戦争終結。
- 1946 マッカーサー元帥が日本上陸、GHQを設置。北九州各地に占領軍が進駐。
- 1950 朝鮮戦争勃発。小倉の陸軍造兵廠は米陸軍歩兵第24師団の司令部となり多くの物資や兵士が門司港から韓国に送られた。多くの国連軍将兵が戦死、小倉は戦没者の処理拠点となった。翌年、無名兵士の鎮魂のため、足立山の麓に朝鮮半島の方向に向かってメモリアル・クロスが建立される。
- 1958 ビルマ政府と門司市(当時)によって、日本唯一のビルマ式寺院、世界平和パゴダが門司めかり公園に建立される。

小倉陸軍造兵廠



1944年6月18日、写真偵察機により撮影された小倉造兵廠。69番の番号のある建物の南側を500ポンド爆弾が直撃し70人以上の犠牲者を出した。(米国公文書館) 出典：米軍資料八幡製鉄所空襲(奥住善重・工藤洋三)

そのルーツ

文：出口隆
 かつて、東京小石川にあった陸軍造兵廠東京工廠は、関東大震災によって壊滅的な被害を受けた。その再建候補地として、最終的に、広島と小倉が残った。小倉市は、地元出身の軍長老にも働きかけるなど強い運動を行い、誘致に成功した。誘致の背景には、1925年の軍縮による、第12師団司令部(城内)やその主力部隊(北方)の転出による市勢衰退があった。

小倉工廠の開設

1927年、陸軍造兵廠の新工廠は、小倉市の紫川左岸、旧城内地区に建設されることで確定。軍は、新工廠に1916年開設されていた小倉兵器製造所を合併し、さらに、1875年以来駐屯していた歩兵第14連隊の兵営と練兵場などを撤去して、計68ヘクタールに及ぶ用地を確保した。現行の住居表示でみると、概ね、城内の大部分、大手町の全部、金田一丁目にあたる地域である。1933年、陸軍造兵廠小倉工廠として正式に開庁。なお、軍の組織改正で、1940年、小倉陸軍造兵廠と名称を変更。

小倉陸軍造兵廠の概要

小倉陸軍造兵廠は、廠内に、第1、第2、第3の3製造所をおき、革具、鋳鋼などをはじめ小銃から機関銃、機関砲、砲弾、そして車両から軽戦車まで製造した。このほかにも、第二次世界大戦末期には、米国本土へ飛行した風船爆弾も手がけた。製造品目からみても、西日本における最大級の総合的兵器製造所であったことが分かる。一方、ここで働く従業員は、軍人・軍属をはじめ、普通工・臨時工を合わせると4万人規模だったとされている。

大戦と小倉陸軍造兵廠

第二次世界大戦の際は、廠内第2製造所が米軍の空襲をうけ被弾、多数の女子挺身隊員も犠牲となった。また、終戦間際の1945年8月に、造兵廠を中心とする小倉市街地は、広島に次ぐ米軍の原子爆弾の投下目標地となった。同月15日、終戦とともに、同廠は機能停止。その後、工作機械などは、賠償物資として持ち出され、そのあとに米第32歩兵師団の一部が駐留。1946年には、交代した米第24歩兵師団が、同廠旧本館に師団司令部を置いた。同師団は、朝鮮戦争が勃発すると、直ちに最前線に出撃した。第二次世界大戦が終わっても、この地には暫く平和が訪れなかった。

小倉兵器製造所の正門



注：小倉市勢要覧/1933年/小倉市役所

小倉兵器製造所



注：小倉名所陸軍兵器製造所/絵葉書

秘

目標情報票

出撃に際し機内に持ち込んではいならない

1.要約:小倉造兵廠は、日本の造兵廠の中で最大のものの一つであり、軽自動火器と小型対空砲と対戦車砲の製造に関して、おそらく日本で最も重要である。それは日本製鉄、八幡工場、福岡の渡辺鉄工場、さらにそのほか北九州のいくつかの工場と密接に統合されている。またそれは戦闘用車両も製造している。

2.位置と確認:施設の解説:目標全体の面積は、南北方向を主軸にして、4140フィート×2040フィートである。この面積はそれぞれが20,000平方フィート以上を覆う36の建物によって、その33%が占められている。頭上を移動する3台のクレーンが、引き込み線を構内の東南隅の貯蔵所と結んでいる。

捕虜による情報は、この工場が北から南に延びる平行な縞になって、三つの別々な部門から成ることを示している。それらは次の通りである。(1)川に最も近くて東側にある弾薬部門;(2)構内の真ん中を通る2列の建物としてのびる火砲の部門;(3)戦闘車両の製造は構内の西側の部分にあると報告された。この地域の北端にあるおよそ22棟の兵舎のような建物は、軍の駐屯地である。

主要な建物のうちで、71%は鉄骨の枠組、29%はコンクリートの枠組である。2次的な建物も、一般的には鉄骨の枠組で、木の枠組の建物がところどころに混じっている。壁は、なまこ板かコンクリートかアスベストであった。屋根の大部分はなまこ板かアスベストで葺いてあり、少数の平らな屋根だけはコンクリートと信じられた。多数の小さな建物は燃えやすい屋根で葺いてある。實際上全ての床はコンクリートである。大半の建物は平屋建てである。

3.重要性:この工場のように各種の活動をしている造兵廠では、生産の速度は不明である。しかし、おそらくは1か月に、あらゆる種類の機関銃が数千丁は作られるであろう。日本の造兵廠の中でも、最大の二つか三つの一つとして、その重要性は明らかである。この造兵廠では、基本的な鉄や銅の生産は行われない。しかし二次的な金属加工施設は大規模に行われる。必要な電力は北九州の送電網で供給される。

この造兵廠は6.5mmと7.7mmの軽機関銃、7.7mmの重機関銃、20mmの対空砲と対戦車砲、および弾丸を生産している事が判っている。混合毒ガス弾を作り、ガス弾を総填し、これらのガス弾を地下室に貯蔵していることが報告されている。捕虜による情報は、この工場が戦闘用車両を製造していることを示している。この工場の最も重要な工程は、兵器の機械仕上げと組み立てである。鍛造とプレスもまた重要である。

損傷を受けた工作機械は撮り替えが困難であり、何カ月にもわたって生産が出来なくなるであろう。組み立て設備と加工作業に与えた損害は日本が危機的に欠乏していると信じられる特殊な機械を破壊するよりも、長期的にはおそらく問題が少ないかもしれないが、効果は速やかにあるであろう。

1945年6月10日

XXI爆撃集団 A-2、目標班

戦後直後の小倉市街地 小倉のデパート井筒屋屋上から電車通りを見る。1945年9月15日撮影(米国公文書館所蔵)



出典:軍資料北九州の空襲(奥住義重・工藤洋三)

門司港からの出征

表：門司港からの南方方面出征 日本陸軍地域別配置兵力(門司港出征兵士記念碑建設委員会HPより)

地域	派遣兵力	戦死者	生還者	戦死率
フィリピン	466,000	368,700	97,300	79%
ボルネオ	29,000	10,400	18,600	35%
セレベス	19,000	1,300	17,700	7%
東ニューギニア	140,200	110,000	30,200	73%
西ニューギニア	53,700	1,800	51,900	3%
スンダ	69,100	51,600	17,500	75%
ジャワ	42,600	2,200	59,500	52%
スマトラ	61,500	2,000	59,500	3%
佛印	96,500	6,100	9,040	6%
タイ	110,800	4,800	106,000	4%
ビルマ	230,800	160,400	70,400	69%
マレー	91,700	6,900	84,800	8%
アンダマンニコバル	11,400	700	10,700	6%
中部太平洋	139,600	91,000	48,600	65%
台湾	155,300	27,200	128,100	18%
沖縄	108,500	67,600	40,900	36%
総計	1,825,700	912,700	913,000	50%

※ジャワでの戦死率の計算が合いませんがそのまま掲載しております



出征記念碑

中国大陸に近い門司港は戦前から石炭の積み出し港として栄え、国内の商社が集まる貿易港だったが、戦時中は戦線への人と物資の供給拠点となった。太平洋戦争期間中の1942年1月—45年8月、門司から761隻の輸送船が出港した。ほかに横浜、神戸などの港もあったが、国内の出征船の約45%を門司港が占めた。当時、門司港付近は出征を待つ兵士が旅館に入りきれず民家にも宿泊し、街は兵士や見送りの家族であふれた。火野葦平の「土と兵隊」などの戦記にも登場する。(西日本新聞2011年8月12日)

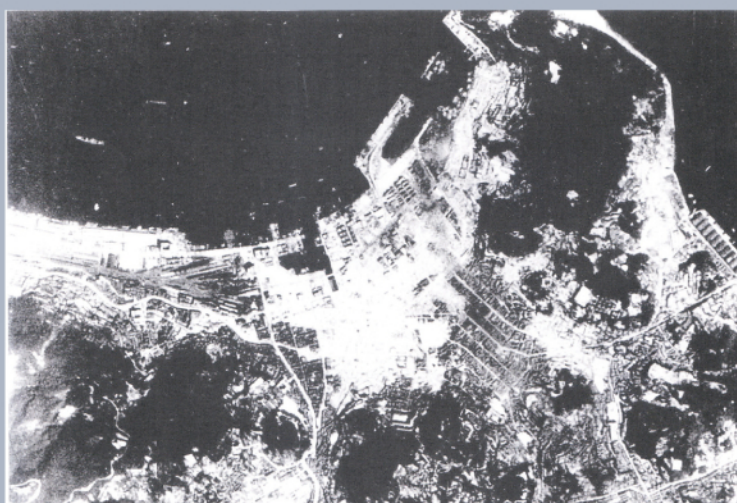
門司市街空襲 1945.6.29

米軍資料北九州の空襲(奥住義重・工藤洋三)より

門司と下関の市街地域は、北九州と本州南部に位置して工業上の収穫を左右する輸送上の関門である。それらは日本の最高に燃え易い地域の中でも、最も集中して燃え易い目標になっている。これらの中心を爆破すれば、攻撃地域から半径10マイル【16km】以内の工場群全体が内蔵している経済的な力は麻痺するであろう。



米軍の写真偵察機が撮影した空襲前の門司市街地。元の写真に爆撃中心を示す○印を加えた。(マクスウェル空軍基地歴史資料室所蔵)



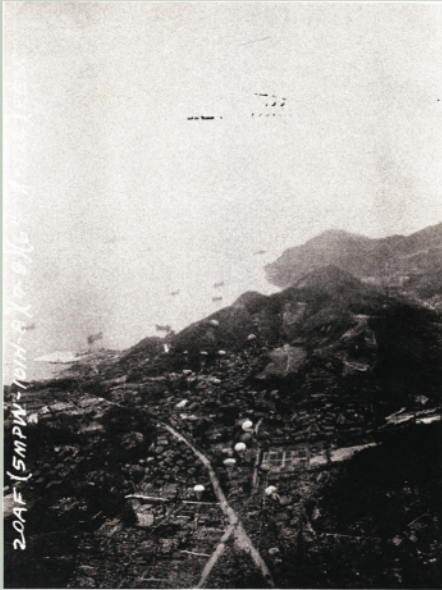
1945年6月29日の門司市街地空襲の効果を調べる為に米軍の写真偵察機が撮影したもの。白い部分が焼失域。1945年7月2日撮影。(マクスウェル空軍基地歴史資料室所蔵)

下関と門司は、全ての鉄道輸送と、本州と九州間および島々とアジア大陸間の船舶輸送の大きな部分に関して、共に一つの隘路を形成している。本州の最終製品工場で消費される石炭供給の60%は、関門トンネル施設群(大里の大鉄道操車場、目標1674を含む)によって門司を通過し、下関とその操車場に送られるものと見積られる。南に向けた輸送には、最終製品と軍需品と軍隊が含まれる。この二つの都市と、輸送を処理する彼らの複雑な体系を破壊すれば、日本経済と軍需生産は著しく崩壊するであろう。無視された連絡船施設では、何週間もかけなければ別として、過重に負担をしている鉄道施設の代りできない。貨物輸送の上で(関門トンネルとその操車場を使って)10時間を短縮するには犠牲を払うことになる。結局、成功した鉄道はふ頭や水上輸送施設のような代替りのものを排除するであろう。同様に重要な効果には次のようなものがある：(1)挑戦と満州にいる軍隊のための支給が危険に陥るであろう。(2)彦島にある隣接した工業地域が妨げられるであろう。(3)若松港のような近傍の積み換え港がひどい悪影響を受けるであろう。

門司港と連合軍捕虜 笹本妙子 POW 研究会

第二次世界大戦中、日本軍はアジア太平洋各地でおよそ13万人の連合軍兵士(米・英・蘭・豪・加・印・NZなど)を捕虜としました。うち3万数千人が国内の労働力不足を補うために船で日本に送り込まれました。日本に着いた捕虜輸送船は大小合わせて70隻近く、その大半が門司港に入港しています。捕虜たちは門司港駅あるいは対岸の下関駅から汽車で日本各地に送られ、炭鉱や鉱山、造船所、工場などで使役されました。

写真提供 工藤洋三



終戦直後の門司港(米公文書館蔵)



終戦直後の門司収容所・門司YMCA(米公文書館蔵)



終戦直後の焼け野原となった門司の町。
後の山の麓に大雄寺、中腹に共同墓地(米公文書館蔵)

■“地獄船”で門司港に到着した捕虜たち

捕虜を乗せた船は別名“Hell ship(地獄船)”と呼ばれました。あまりにも悲惨な航海だったからです。捕虜たちは暗い船底にすし詰めになされ、食べ物も水もろくに与えられず、トイレもない不衛生な環境のため赤痢などの伝染病が蔓延し、大勢の人がバタバタと死んでいきました。さらに、連合軍の魚雷攻撃や爆撃によって船が沈没し、おびたしい犠牲者が出ました。航海中に死亡した捕虜は1万人以上と言われています。かろうじて門司にたどり着いた捕虜たちも、心身ともに衰弱のきわみにあり、上陸直前に船内で息絶えた人も大勢いました。その様子を目撃した人がこんな証言をしています。

岸壁には倉庫からはみ出した棺が二段三段に重ねられてずらりと並んでいて、中にはきちんと蓋が閉まらないのか、棺から手が出ていたりしていました。異様な光景でした。上陸した捕虜たちも、真っ黄色な顔をしてフラフラでやっと立ち上がってきました。今にも死にそうな捕虜たちが縦隊に並ばせられて、日本の兵隊に引率されてどこかへ連れて行かれました。(内海愛子著「日本軍の捕虜政策」より)

門司入港直後に亡くなった人たちは浜辺や円山町の市営火葬場で火葬されました。何とか歩ける人たちは日本各地の収容所に送られていきましたが、重症患者は小倉陸軍病院や下関検疫所、門司収容所などに収容されました。

■門司収容所

この収容所は、昭和17年11月27日に、門司市楠町(現・門司区老松町)のYMCAの建物を利用して開設されました。時期によって名称が異なりますが、最後の正式名称は「福岡俘虜収容所第4分所」でした。

ここに“定住”していた捕虜はイギリス人、アメリカ人、オランダ人など約300人で、彼らは主に門司港に停泊する船や外浜駅周辺の倉庫などで荷役として働かされました。門司で約2年半を過ごしたあるイギリス人元捕虜は、過酷な労働や飢え、監視員の暴力に苦しむ日々だったが、中には親切的な日本人もいたと語っています。

彼らの他、門司港に入港した捕虜輸送船からの重症患者も臨時に収容し、ここから多数の死者が出ています。終戦までにこの収容所で死亡した人は計191人ですが、上陸直前に輸送船の中で死亡した93人を加えれば、計284人となります(別資料では303人)。彼らの遺骨は最初収容所に保管され、のちに本願寺別院に移されましたが、この寺が焼失したため、昭和20年5月に庄司町の大雄寺の共同墓地に埋葬されました。終戦後、これらの遺骨は進駐軍によって回収され、横浜の英連邦戦死者墓地の納骨堂に合葬されました。

■下関検疫所

昭和17年11月末頃、一度に4隻もの“地獄船”が到着したとき、赤痢などの伝染病患者約60人が、門司の対岸、下関市彦島江の浦町にあった下関検疫所の隔離病棟に収容されました。門司収容所の分室として位置づけられていましたが、いつ頃まで存続したのか不明です。地元の話では、小康状態になった捕虜は第2収容所(彦島江の浦町2丁目付近)に移されたとのことですが、これも詳細は不明です。



下関検疫所跡(2006年時点)

■小倉陸軍病院

同じく、門司に到着した捕虜のうち重症患者は小倉陸軍病院(現・国立病院機構小倉医療センター)に入院させられました。入院捕虜数は不明ですが、ここで160人余りが死亡しています。回復した人々は貴重な労働力として各地の収容所に送られていきました。

八幡大空襲 1945.8.8

B-29、170機。罹災者52,562人、死傷者約2,500人

秘

出撃に際し機内に持ち込んで서는ならない

目標情報票

目標：八幡市街工業地域
目標地域：90.34-下関

八幡市街工業地域
(若松、戸畑、黒崎、小倉及びその関連を含む)

要約

日本における四つの都市工業集中地帯の一つに挙げられるが、八幡地域は、下関海峡の南と西に広がって、北九州の沿岸沿いに狭く縁取りをしたような形をしている。この地帯は、5つの工業都市の複合体であって、日本で最大の一つの製鉄所；精銅所の石炭乾留施設に関連する重要な化学工場；この地域と北九州の送電網に供給する大規模に開発された火力発電所；日本の最も重要な造兵廠の一つ；そして活力ある鉄道と船舶輸送施設を含んでいる。

重要性

八幡地域は、日本本土内の元も重要な工業集中地の一つと位置づけられ、「日本のピツバーグ」「日本の小ルール」と呼ばれてきた。それは日本の鉄鋼生産の中心地で、周辺地域に大量の銑鉄、鋼塊、圧延鋼の製品を供給する。重化学工業の大規模な発展は、日本の軍需産業にとって、またコークスと石炭処理工場の副産物が農業生産を維持してくれる事で重要であった。

戦略的な位置にある下関海峡付近、極東における最大の船舶輸送の中心地、八幡地域には、よく整備された港と鉄道施設がある。海峡の下を潜る関門トンネルは、本州と九州北部との間を連結する。八幡地域は筑豊炭田に近く、北九州の鉄道網を激しく使って年間2,000万トンと、見積もられる石炭が運搬される。八幡地域は火力発電所を通じて自身の電力を生産し、北九州電力網に貢献している。

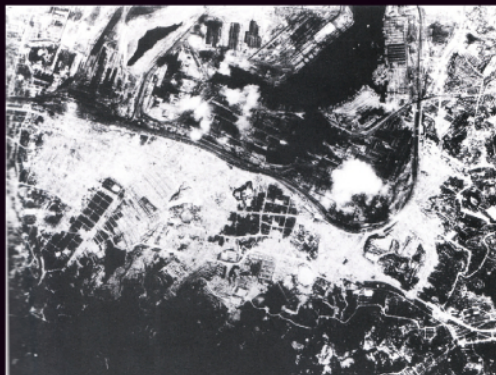
この地域の合計人口はおよそ650,000である。この巨大な工業複合体に付属する居住を焼夷弾で破壊すれば、相当な長期欠勤と社会的な混乱を引き起こすにちがいない。日本製鉄で実質的に生産損失があれば、ほかの都市にある多数の関連工場と、帝国の残りの部分に損害を与えるであろう。重要な火力発電所を無くすれば、この地域の全ての生産は事実上停止するであろう。北九州の輸送線を妨害すれば、完成品、半成品および副産物の流れは停止するであろう。重要な鉄道修理工場に損害を与えれば、すでに過重な負担をしている陸上輸送網はひどい無理に苦しみ、九州に作戦する事になった場合には、障害の軍隊輸送や補給に影響するであろう。小倉の重要な造兵廠に損害を与えれば、九州のために最も手近に利用できる武器弾薬の供給源を絶つことになるであろう。港湾施設とこれに付属する小舟の造船所を破壊したり、これに損害を与えたりすれば、船便の使用を増大して陸上輸送を緩和しようとする日本人の努力は阻害されるであろう。石炭と鉱石を積み込んだり箱詰めにしたる装置のある種のもは、損害を受けやすく、取り換えがきかないであろう。

市街地域目標3630の内側にある番号付き目標は以下の通り：

168-小倉造兵廠	569-九州化学工業(八幡)	1857-OKUMA鉄工場	1672-若松造船所
184-小倉鉄道工場	567-旭硝子会社(八幡)	1859-東京鋼索製造会社(小倉)	558-栃木造船所
2173-東小倉鉄道操車場	1851-日本合成工業(八幡)	2170-戸畑鉄道操車場	32-若松港
1127-小倉火力発電所No.1	2169-八幡鉄道操車場	33-戸畑港湾施設	1123-日本液体燃料会社(若松)
188-小倉火力発電所No.2	1108-日本アルミニウム会社(黒崎)	29-日本製鉄・戸畑分工場	1864-東海製鋼製作会社(若松)
165-小倉製鋼所	1113-日本合成工業(黒崎)	1594-戸畑火力発電所	555-東海製鋼製作会社(若松)
1856-九州特殊鋼会社(小倉)	1126-安川電機会社(黒崎)	1853-東京製缶会社(戸畑)	1861-日立機械製作所(若松)
28-日本製鉄(八幡)	1866-小倉港湾施設	1852-日立機械製作所(戸畑)	
28A-日本製鉄・火力発電所	1860-東洋特殊鋳物会社(小倉)	2171-若松鉄道操車場	1945年6月20日
28B-日本製鉄・火力発電所	177-大阪曹達会社	561-若松鉄道工場	XXI爆撃機集団、A-2 目標班



8月8日八幡大空襲



空襲後の八幡市街地(白く見える部分が焼け野原)

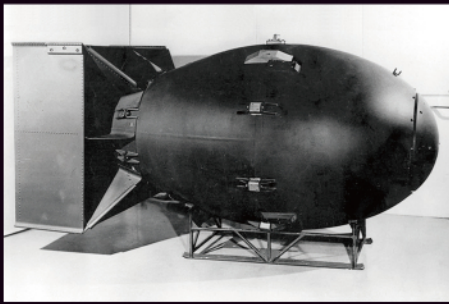


八幡製鉄所の構内に投下された焼夷弾1945年9月14日

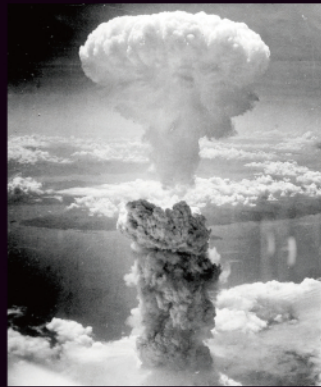
1945年8月8日の八幡大空襲の米国側作戦に関する資料の一部になります。文章および画像は【米軍資料北九州の空襲 / 奥住善重・工藤洋三(発行:北九州の戦争を記録する会)】より引用しています。より詳しい北九州の空襲に関する米国側資料は工藤洋三氏の【米軍資料北九州の空襲】をご参照ください。

原子爆弾・小倉上空 1945.8.9 朝

8月9日9時44分、プルトニウム爆弾「ファットマン」を乗せたB-29「ボックスカー」が小倉上空に到着しました。「ファットマン」は広島に投下されたウラン爆弾「リトルボーイ」に比べてはるかに強力なる全く異なる爆弾でした。



プルトニウム爆弾「ファットマン」



ボックスカー (B-29爆撃機)

チャールズ・W・スウィニー：「私はヒロシマ、ナガサキに原爆を投下した」黒田剛訳(原書房)より

小倉が見えてきた。ジム・ヴァン・ベルトは数分前に。それをすでにレーダー画面で確認していた。午前九時四十五分だった。先刻の報告通り薄もやがかかっていたが、今はさらに雲の断片も入り混じっていた。攻撃始点に到着したとき、目印のいくつか一川、建物、道路や公園までも一がはっきり確認できたので、我々は目標である小倉軍需工場を狙える見込みは高いと考えた。

爆撃航程に入ったところで、ビーハンが突然声をあげた。「見えません！見えません！煙で目標が隠れています」。前夜の八幡爆撃で発生した火災が今なお手に負えぬ勢いで燃えており、ジョージ・マクオートが天候状況を無線連絡してきた時から風向きが変化したために、大量の煙が小倉の上空に流れ込んでいた。照準点に入っても、ビーハンは「見えません！」を繰り返した。巨大な小倉軍需工場は煙ともやに包み隠されていた。私はインターコムに向かって怒鳴った。「投下中止。繰り返す、投下中止」

私は機体を極度に左へ傾けて南方へ旋回し、攻撃始点への接近を再開した。周囲でいっせいに一我々の左で、前方で、右で、後方で、高射砲が炸裂しはじめた。次の瞬間、尾部銃撃手のパピー・デハートが叫んだ。「高射砲です！角度はずれてますが、高度は完璧です」みんないっせいにそちらを振り向いた。「了解、パピー！」私は答えた。敵は高射砲を動かして我々の期待に照準を合わせようとしていた。私は、戦闘機のパイロットならまずやらない行動に移ろうとしていた—目標への二度目の接近を試みたのだ。こちらの二度目の爆撃航程とは、相手の対空砲撃に二度目のチャンスを与える事を意味した。

私は敵の高射砲起爆を混乱させるべく、高度を9500メートルに変更した。照準点に近づいた時、パピーが再び割って入ってきた。「敵の高射砲がすぐうしろを狙っていて、どんどん近づいてきます」その声は今やパニック気味だった。「気にするなパピー、こっちは爆撃航程に入っている」私は冷静に答え、照準点への接近に神経を集中させた。私はビーハンが目標を捉えたというサインを送ってくるのを待った。煙ともやの合間に目標を見つけていくれと願った。この作戦の好機を、ここでなんとかつかみたかった。「見えません！」ビーハンは再度叫んだ。再び急旋回させながら、私は怒鳴った。「投下中止。繰り返す、投下中止」

レーダー操作士のエド・バックリーが報告してきた。「少佐、日本の零戦が接近中。およそ10機です」。私はさらに300メートル上昇して対空砲撃を振り払い、それから別の角度で接近してみようと試みた。角度を変えれば、雲の穴を見つけるチャンスがあるかもしれない。

ビーハンとヴァン・ベルトがあわてて航程接近データを計算した。高射砲がすぐそばで炸裂するため、機体が反動で跳ね上がった。だが三度目の航程も二回と同様、失敗に終わった。照準点はやはり視界が悪かったのだ。クハレックが、燃料残量が極めて厳しいと報告してきた。第二の目標地長崎に飛び、一回の爆撃航程を行う分しか残っていないという。しかも最も近い米軍基地のある沖縄にさえ、帰還する事は無理だろう。八〇キロほど手前で燃料切れになる見込みだった。

エド・バックリーがインターコムで割り込んできた。「下方に戦闘機、こちらへ向かって上昇してきます」。日本軍の無線電波を傍受しているジェイク・ビーザーが、日本の戦闘機の活動が活発化している事を確認した。零戦以上に、対空砲撃が気がかりだった。蹄鉄投げや手榴弾とおなじで、命中しなくても、近くに居れば爆撃に巻き込まれる危険がある。これ以上ここに留まれば、つぶされるのは時間の問題だった。



小倉造兵廠があった場所、勝山公園にある長崎市より贈呈された「長崎の鐘」(レプリカ)。毎年8月9日に慰霊祭が行われています。

1942年、アメリカ原子爆弾開発計画(マンハッタン計画)が始まりました。1945年4月、ルーズベルト大統領の死を受け副大統領であったハリー・S・トルーマンがアメリカ大統領に昇格しました。1945年7月16日、人類初の核実験(トリニティ実験)がアメリカのニューメキシコ州で行われました。そして8月に広島と長崎に原爆は投下されました。2012年8月、トルーマン大統領の孫に当たるクリフトン・トルーマン・ダニエル氏が平和式典への参加の為に広島と長崎を訪れました。トルーマン家の血族としては原爆投下後、初めての平和式典への参加でした。

朝鮮戦争とメモリアルクロス

1950年6月25日、朝鮮戦争勃発。

福岡県は国連軍の最先端基地となり多くの物資や兵士が芦屋、築城、板付、門司港から韓国へと運ばれました。福岡県以外の地域に駐留していた米軍も小倉を經由し戦場へと向かいました。小倉に駐留していた陸軍24師団は開戦後すぐに韓国渡りましたが北朝鮮軍の猛攻により壊滅状態になりました。開戦当初の北朝鮮の勢いはすさまじく国連軍は苦戦を強いられ、多くの戦死者や負傷兵が北九州に運ばれました。アメリカでは朝鮮戦争は「忘れられた戦争(The Forgotten War)」とも言われています。

メモリアルクロスのリサーチをしていると色々な出会いがありました

“Hello from Kokura, Fukuoka JAPAN” Seina - Tom Thiel



Mr. Tom Thiel

私は昔第24師団が駐屯していた日本の福岡県、小倉に住む白石昌子(Seina)です。インターネットで24師団のサイトを見つけドナルド・マジオさんに電話をしたら朝鮮戦争の退役軍人であるあなたの連絡先を貰いました。

私の住む小倉には国連軍が建てた朝鮮戦争のメモリアルがあります。私が子供の頃にある事は知っていたのですがどうして朝鮮戦争のメモリアルが私の街にあるのかわかりませんでした。年配の方にたずねたり図書館にも行ったのですが詳細は解らず市役所の方からは「国連軍が建てそのまま置いて行きそれ以上の情報は判りません」と言われました。メモリアルクロスに関わる物語やどうして小倉に建てられたのか、何人程の兵士が小倉から朝鮮戦争に行き、生きて帰れなかったかを知りたいと思います。朝鮮戦争は私の故郷の歴史の一部でもあり彼らの命と歴史を覚えておきたいと思いました。お返事が頂けますように。よろしく願いいたします。

Seina

Dear Seina

小倉がどこにあるかを見つけたとき、メモリアルがなぜそこに設立されたのかははっきりと判りました。

朝鮮戦争が1950年6月に勃発するまでは、多くの米軍が第2次世界大戦に引き続き占領軍として日本に駐留していました。当時、小倉には第24歩兵師団の司令部がありました。ディーン司令官の本によると歩兵24師団と小倉の関係が記されています。しかし本の中に書かれている出来事(小倉との関連性)は小倉にメモリアルクロスが建つ前の事です。第24歩兵師団が朝鮮に派遣されたあと、1952年1月に第24歩兵師団に代わって第40歩兵師団が小倉に駐留しました。第24歩兵師団の第3工兵部隊隊員として共に小倉にいた友人がいるので、もっと詳しい情報を彼に尋ねる積りです。第40歩兵師団にも別の友人がいます。

米軍が韓国を守ることを表明したとき、小倉は韓国に最も近くにあったので第24歩兵師団が最初に朝鮮戦争に送られ小倉から出発しました。

何故メモリアルクロスが小倉にあるのかについて私の憶測ですが、第24歩兵師団の将兵の多くが小倉から派遣され朝鮮戦争に参加直後戦死したことが1951年までに国連によって認知されたからだだと思います。例えば、第24歩兵師団の第34歩兵連隊(全員でおよそ15,000人)が北朝鮮軍によってほぼ壊滅的な打撃を受け”書類”の上でのみ日本に帰ってきたということなどです。生き残った部隊は第24歩兵師団の姉妹師団であった第19歩兵師団に派遣され、私もそこに配属されました。私は耳と多少精神的なもの以外に負傷しなかったので非常に幸運でしたが、親しい友人を含む多くの友人を失いました。

兵士の慰問の為、モニカ・ルイスとダニー・ケイが韓国に来たとき私もそこにいましたが、私にとって10月と11月は非常にづらい時期で彼らがそこにいたのを覚えていません。ボブ・ホープの一行がそこに来ているのは覚えていますが、家族から離れていることがとても悲しくなるので彼等を見に行くことをあきらめ、友達を行かせて私は最前線に残る方を申し出ました。

私がこれから計画している事は、あなたの許可を貰い、あなたと24師団の関連を紹介したサイトページを作ろうと思っています。次に第24歩兵師団のTaro Leafと在郷軍人会の朝鮮戦争Graybeardsの2冊の雑誌に記事を書きます。この2冊の雑誌の読者は約2万人の退役軍人で、彼等の大部分は小倉で何らかの経験を持っています。あなたの写真を送ってください。

最後に考えが一つ思い浮かびました。第24歩兵師団は毎年同窓会をしていますが、次回は2013年9月にケンタッキー州レイビルで開催される予定です。もしあなたの米国老人ホーム訪問が具体化したときのご参考まで。

トム・シール(Tom Thiel) 第24歩兵師団 退役軍人



NEVER FORGOTTEN: My Facebook friend and fellow singer / humanitarian Shoko "Seina" Shiraiishi, who is devoted to preserving and performing the American pop and jazz hits of my own mid-century era, sent me these lovely photos taken on Christmas Day 2012. Seina visited the Korean War Memorial Cross in her hometown of Kokura, Japan, and -- as a sweet gesture of remembrance and gratitude to our soldiers and their sacrifices, and to my own 1951 troop-entertainment tour of the frontlines in Korea with Danny Kaye -- played two of my songs on-site via her iPhone. The tunes were "The Song is You" and "I'll Be Seeing You," which both appeared on my 1957 album SING IT TO THE MARINES. To learn more about Seina, her music and her good work, please visit her on Facebook or on the Web. Love to you, Seina! oxo, Monica

忘れないように: 私のフェイスブックフレンドで歌手仲間、私の時代のアメリカのポップス・ジャズヒットをこよなく愛しているSeinaが、クリスマスに撮ったラブリーな写真を送ってくれました。Seinaは彼女の住む日本の小倉にある朝鮮戦争のモメンタルクロスをおとずれました。そして、とても愛らしい追悼の想いを私たちの兵士へ、そして1951年ダニー・ケイと行った前線の兵士の慰問ツアーの思い出に。彼女のiPhoneで私の歌を2曲流してくれました。その曲は、"The Song Is You"と"I'll be Seeing You"。この2曲は1957年の私のアルバム、SING IT TO THE MARINES(海兵隊に歌う)に収録されています。Seinaの事を知るには、彼女のフェイスブックとサイトに訪れてください。Love to you, Seina! oxo, Monica

戦地を慰問するスターたち

アメリカでは多くの歌手やスターが戦地へ慰問に行きました。文中に出てくるボブ・ホープはアメリカの大スターで、第二次世界戦、朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争まで約60年に渡り慰問ツアーを行いました。1954年マリリン・モンローは元野球選手ジョー・ディマジオと新婚旅行で日本を訪れた際、福岡を経由し韓国に渡り兵士たちを慰問しました。このような兵士への慰問活動は太平洋戦争中には日本軍の間でも行われました。「蘇州夜曲」「何日君再来」で有名な歌手渡辺はま子は慰問先の天津で終戦を迎え、捕虜として1年間収容所で暮らしました。戦後もフィリピン、モンテルパ刑務所の戦犯解放の活動に力を注ぎました。森光子、東海林太郎、藤山一郎など日本でも多くの歌手が戦地に赴き慰問活動を行いました。1940～1950年代、ハリウッドスターで歌手だったモニカ・ルイスは彼女の全盛期であった1951年秋、ダニー・ケイ(谷啓の名前の由来となった俳優)と共に朝鮮へ赴き前線の兵士達への慰問ツアーを行いました。現在(2013年2月)90歳になる彼女は今も当時の兵士の事を想い、インターネットで自ら発信をしています。朝鮮戦争をフェイスブック内で検索した時、彼女の朝鮮戦争元兵士たちの想いを知りメッセージを交換するようになりました。スター達の戦地の兵士たちを訪ねる慰問ツアーはベット・ミドラー主演映画「フォー・ザ・ボーイズ」等で知ることが出来ます。(Seina)



かつて多くの戦死者が運ばれてきた小倉から朝鮮戦争で大切な人を亡くした方々にモメンタルクロスの存在が、今、広がって行っている

Letters

How many soldiers left to Korea from Kokura and never came back? I think Korea War is a part of history of my hometown and I like to remember their lives and history. Also I would like to know about Kokura during GHQ occupation and Korean War. If you can share your memories about Kokura, it would be wonderful. I look forward to hearing from you. Warm regards, Seina Shiraiishi

Members: I would encourage all who can go to the two websites Seina provided. They not only give more information on the Memorial Cross, but also on her goals and objectives. Rather extensive searching of the Internet has not helped me much. Obviously the 24th Division was headquartered in Kokura at the start of the Korean War in late June 1950, and many of its men departed for Korea from there. Our website, www.24thdiv.com, has 74 separate articles, books, or two leaf pages containing the word "Kokura." Most of these appear in the approximately 4,500 pages of two leaf publications that have been updated. The dates for these entries range from 1946 to 1950. General Dewar's book, The General Dewar story, provided the most evidence of the 24th's connection to Kokura. But, all of this occurred before the creation of the Kokura Memorial Cross. The website, <http://peace.marjono.com/>, provides more on this to say about the Cross. 1950 - United Nations Memorial Cross, Kyushu, Japan (Kokura Prefecture, Kyushu island) (Japan). "Traveling from Korea, the soldier of the United Forces killed in the Korean War is commemorated." Inscription: "In honor of the fallen heroes of the United Nations Memorial Cross who were members of the Kokura General Depot Camp Kokura Kyushu Japan. 1950" (The website was created in 1983 and includes the old city of Kokura.) A search of "Kokura General Depot Camp Kokura Kyushu Japan" yielded information that Kokura was home to graves registration and recovery. The US Army Chaplaincy Foundation - Quartermaster Review Memo (June 1954, http://www.uscma.org/online/USM/USM_Searched_Items.html) indicated that "On January 2, 1951, Zone Headquarters was notified that 101 only 41 US Forces' bodies from Kokura to Korea, a large number of them also "came home via the reverse route."

But, sadly, I am unable to give Seina answers to the who and why of the Kokura Memorial Cross! If you can provide any more information for Seina I would be most grateful.

Tom Miller, 24th Webmaster
18147 Park Place Blvd, Suite #1, 32736
Email: 24thdivweb@gmail.com
Tel: 352-321-3853 or 352-388-6522 cell

世界平和パゴダ

概要

全棟竣工	1958(昭和33)年9月
建設責任団体	門司世界平和パゴダ建立委員会
敷地面積	約3400坪(11,220㎡)
建物施設	世界平和パゴダ、僧院、戒律堂、研修道場
総工事費	4,000万円 (ビルマ政府仏教会2千万円、門司世界平和パゴダ建立委員会2千万円)
パゴダの高さ	45m
釈尊坐象の高さ	1.6m



設立の経緯

1954(昭和29)年12月ビルマ(現ミャンマー)のカパーエ・パゴダで釈尊の入滅2,500年を記念して第3回国際仏教徒会議が開催された。この際、日本の代表者は上座部(南方)仏教に感銘を受け、翌1955(昭和30)年ミャンマー政府に要請、13名(男12名、女1名)を上座部仏教の研究のため派遣し、アパラゴーマナ僧院に居住させ仏典を学び座禅の指導を受けさせた。その後日本に戻った彼らは、日本釈尊正法会を作り、1956(昭和31)年8月東京に於いて日本仏教(大乘仏教)とビルマ仏教(小乗仏教)の交流の名目で日本側とビルマ側の仲立ちを行い、上座部仏教布教のため日本に布教センターを作りたいビルマ側と第二次世界大戦戦死者の英霊の合祀を行いたい日本側双方の思惑を合致させ、世界平和パゴダ建立が決定された。そしてふたつの候補地(京都市、門司市)より門司市が選ばれた。同年9月には門司世界平和パゴダ建立委員会が設立され、会長に門司市長の柳田桃太郎氏が就任、同月地鎮祭が執行され門司世界平和パゴダの建設が開始される。そして1957(昭和32)年には僧院、翌年1958(昭和33)年にはパゴダ他全5棟が完成した。完成に合わせビルマ側よりは僧侶5名が派遣され、同年9月9日落慶式が執行された。その後僧侶たちは常駐し、総礼、三帰、五戒と小乗仏教227の厳しい戒律(生涯独身、1日2食、政治不参加、金銭とは無縁など)を守り、毎日諸方からのお詣りに来る人々の求めに応じて法を説くとともに、毎朝大東亜戦争に散華した方々のために、読経をあげて冥福を祈った。



パゴダ (pagoda) とは、仏舎利を安置する仏塔の意味で、ミャンマーではパヤー(Paya)と呼ばれている。

現状と今後の方向性

門司世界平和パゴダは順調に運営されてきたが、2011(平成23)年12月、住職であったウ・ケミンダ大僧正がお亡くなりになった後、資金難やこれまで中心となって世界平和パゴダを支えてきた戦友会の方々の高齢化もあり休館となった。しかし、旧役員を中心とした地元有志やミャンマー仏教会及びミャンマー大使館は再開に向けての協議を行い続け、そして2012(平成24)年8月28日世界平和パゴダに新たにミャンマーよりウ・ウイマラ長老とウ・ケミンダ大僧の2人の僧侶が派遣され、翌29日の夜から世界平和パゴダで生活を始めた。つまり、8月29日をもって世界平和パゴダは再開されたことになったのである。また、併行してミャンマー仏教会及びミャンマー大使館は、地元経済人の佐久間進氏(サンレーグループ会長)に世界平和パゴダの再建を委嘱。佐久間氏は地元経済人や学識経験者による日緬仏教文化交流協会を立ち上げ、運営はもとより資金面や老朽化した施設の改修問題など世界平和パゴダ再建への支援を行っている。現在、2人の僧侶は布教活動に努められており、再開を知った地元の方々など参拝者も増え、世界平和パゴダは元の賑わいを取り戻しつつある。



オランダ人元捕虜と水巻町の友情

太平洋戦争(大東亜戦争)中、遠賀郡水巻町の炭鉱(折尾捕虜収容所)では多くの捕虜が労働をしていました。水巻では多くのオランダ人捕虜が収容され53名のオランダ人が亡くなりました。敗戦後、GHQの戦犯調査の直前に日炭高松が慌てて十字架を建てました。



捕虜の一人だったオランダ人のドルフ・ウインクラーさんは戦後40年経っても、当時の事を思い出さずなされていました。今でいうPTSDだと思います。精神科のカウンセラーに相談すると、現地に行き、苦しみ元になるものに向かい合うようアドバイスされ、1985年、水巻町を訪ねる事にしました。ウインクラーさんは作家の林えいだい氏に連れられ荒れ果てた十字架に案内されました。町役場に相談に行くと「十字架」という宗教色のあるものであった為取り合ってもらえませんでした。その後、黒河省二さんの所に相談に来ました。省二さんはお兄さんの博さんに相談しました。「水巻におってから、誰もせんちゃ、おかしいやろ。うちの兄弟でやろうか。」十字架の塔は黒河さん兄弟が管理を行う事になりました。荒れ果てた十字架の塔は補修が必要でした。ある建設会社の方が「自分の兄弟も戦争で亡くなった、供養のつもりでさせてくれ」と申し出てくれ、十字架の塔の修復工事が行われました。墓標には水巻で亡くなった53名と日本全国の収容所で亡くなった871名のオランダ人の名前が刻まれています。

1987年からは毎年献花式が行われるようになりました。ウインクラーさんは何度も水巻町を訪れました。オランダからも多くの方が十字架の塔を訪れました。敵国であった日本に対する強い反日感情を持った方々、元捕虜や遺族の方々、戦時中日本人とオランダ人女性の間に生まれた方々、戦時中インドネシアで強制収容所での生活を余儀なくさせられた方々、オランダ政府関係の方々、多くのオランダ人が水巻町を訪れました。町も十字架の塔やオランダとの交流へ積極的に参加協力するようになりました。

ウインクラーさんは、初めて日本に来た頃は笑顔を見せる事ありませんでした。水巻の方々と交流の中で少しずつ打ち解け笑顔を見せるようになりました。水巻の子供たちとも交流をするようになりました。彼は遺言で遺灰を水巻町の十字架の塔の横に散骨する事を希望しました。2009年、ウインクラーさんと十字架の塔を守り続けた黒河博さんは同じ年に永眠しました。

ウインクラーさんと黒河博さんが育てた友情と十字架の塔は、今もあの戦争で憎しみを抱えるオランダ人の心をいやす懸け橋となり、今では毎年中学生のホームステイ派遣・受け入れが行われ、小学校ではオランダ人訪問団との交流会が行われています。

2011年、水巻町の十字架の塔を知り、2012年現代表の黒河英利さんを訪ね、その後献花式や交流会等に参加させていただきました。小学校で行われる交流会の通訳ボランティアをさせて頂いた際は子供たちのエネルギーに驚かされました。子供たちが英語であいさつをしてくれます。小学二年生との給食の時間は質問が止まりません。多くの方が避けようとする捕虜の問題やあの戦争の歴史を子供たちはどこまで知っているのでしょうか。しかし、一生懸命彼らをもてなそうとする子供たちの姿は長い間日本を憎み続けたオランダの人たちの心の中に新しい時代の息吹を勢よく吹きかけているようでした。そして、「戦争被害者」と言われる方々は笑顔で水巻を去って行きます。インターネットで検索をすると水巻町にホームステイで訪れたオランダの中学生の動画がありました。子供たちの笑顔を見た時、黒河さんご兄弟、水巻町、水巻の方々がオランダの方々と育んできたものに驚かされました。水巻町の若者は海外青年協力隊への参加率が全国でも高いと聞きました。

オランダとは今まで全く縁のなかった私ですが、憎しみと苦しみを子供たちの笑顔に変えたウインクラーさんと黒河さんの活動により、水巻町で新しい国際交流を体験させて頂きました。彼らの育んだ友情はオランダと水巻町の子供たちに新しい友情をつなげ、これからも未来へ、オランダ人捕虜たちの歴史と命は水巻で育った子供たちの心の隅に生き続けるのかもしれない。



みらいへ

元連合軍捕虜であった元アメリカ海兵隊員のドナルド・ヴァソーさんとの出会いから私は安易に「門司港に連合軍捕虜のメモリアルを作りたい」と思うようになりました。門司の港に着いた捕虜の多くが故郷に帰ることなく、異国の地、日本で死んだ。その歴史を地元の人は知らない……。アメリカですら太平洋戦争での日本国内の捕虜の事は長い間表に出なかったと聞き、国の為に命をかけたにもかかわらず、忘れられるって、どんなことだろう。と、私なりに考えました。

実際にメモリアルを作りたいと言っても簡単なものではありませんでした。連合軍捕虜に関する事や北九州の戦争との関わりを調べ始めました。しばらくすると、どうしてオランダが？イギリスが？オーストラリアが日本と戦ったの？沢山の疑問がわき、解らない事はすぐにネットで調べました。私は戦前、戦中の南方アジアの事を何も知りませんでした。

捕虜のメモリアルに関しては北九州ではあまり興味を持ってもらえませんでした。敵国の捕虜の事だからかな、と思っていました。ふと、北九州市内にすでにあるいくつかの戦争に関連するメモリアルの事を調べてみました。八幡大空襲の慰霊碑、メモリアルクロス、門司港の世界平和バゴダ、どれももうあまり関心を持たれてないようでした。ビルマ戦線で亡くなられた方々のご遺族がサポートをしていた世界平和バゴダは2011年暮れに閉鎖されていました(2012年8月ミャンマー政府のサポートにより再開)。あの戦争は私たちの世代やもっと若い人たちにとっては関係のないものになってしまっている事に気付きました。バゴダを訪ねるとビルマで戦死した方々を想う方々の気持ちを随所に見る事が出来ました。寄付の為に石に刻まれた名前を見ると、昭和の遠い出来事を眺めているようでした。連合軍捕虜のメモリアルの事よりも、あの戦争で亡くなった日本人たちの事すら、忘れ去られようとしている事に気付きました。

私は長い間、あの戦争を起こした日本は恥ずべき国だと思っていました。日本があの戦争で何をしたのか、どうして戦ったのか、深く知ろうとしませんでした。しかしドナルドさんとの出会いからあの戦争の事を調べざるを得ない事になり、私たちが聞いてきた歴史以外の出来事をいくつも知る事になりました。

あの戦争の話題になると、色々な考えが対立する事はよくあります。ネットを検索していくうちに様々な出来事や情報、考え、立場や経験がある事を知りました。各国により情報や考えは違い、日本国内ですらあの戦争は正戦であったという意見と、過ちだったという意見がぶつかり合います。

アメリカでは軍や政府の機密文書の多くが年月が経つと公開されます。本の選び方も昔と今とは全く違い、ある程度本の内容や信憑性を調べてからネットで買ったり、図書館で借りたり出来るようになりました。アジアには日本と一緒に戦い親日だった方々も居るそうです。今までは、テレビ、新聞、学校教育が大まかな歴史観を与えていたかもしれませんが、時代が変わった今だから知る事が出来る事柄も多くある様に思いました。

私の祖父母と昭和十年代に生まれた両親ではあの戦争や日本に対する考えや想いは違います。私と両親の世代でもまた考えや想いが違います。あの戦争は世代によって受け取り方や感じ方は全く違って来るように思いました。

あの戦争がなんだったのか、私には語るだけの力量も知識もありません。未来には情報の量も、考え方も今はまた変わっているのだと思います。私はあの戦争の事に関ることにより、多くの出会い、考える機会、学び、感動をもらいました。あの戦争とその前後には、現代日本への変換の大切なカギがある様に感じました。

とはいえ、私は20年後に、あの戦争の事をどう考えているのでしょうか？今の20代の人たちは、あの戦争をどの様にとらえ、知って行くのでしょうか？その子供たちはまたいつの日か、あの戦争の事をどう教わり、どう知って行くのでしょうか？

みらいには、今はまた違う考え方や感じ方がある様な気がします。

最後になりましたが、この冊子を作るに当たり、お忙しい中ご協力下さいました、郷土史研究者の出口隆さん、元IMAX日本法人社長の山本昭生さん、POW研究会の笹本妙子さん、写真家の木寺一路さん、多くの米国資料や文献の掲載を許可下さいました工藤洋三さん、製作費用にご協力いただきました方々に心より感謝いたします。この冊子制作中にご縁を持つ事が出来た、24師団のトム・シールさん、歌手のモニカ・ルイスさん、マッカーサー元帥の護衛をされていたデビッド・ヴァレイさん、朝鮮戦争のメモリアルが繋いでくれたご縁に心から感謝いたします。そして何よりも、Facebook、mixi、ブログを通して見守り、応援くださっている方々に……貴女たちの支えがあるから、「戦争」という難しいテーマに私なりに挑戦する事が出来ました。いつもありがとう。

白石昌子(Seina)



人と人をつなぐ。心をむすぶ。

サンレー

松柏園ホテルグループ
紫雲閣グループ
有料老人ホーム 隣人館

www.sun-ray.co.jp

Bar
小長光
Konagamitsu

パール・デ・コナガミツ
小倉北区鍛冶町1-3-4
美松コア1F

医療法人 井上秀人歯科
ベリーズ
インプラントセンター



小倉北区井掘2丁目8-12



KOKURA
BAY HOTEL DAIICHI

小倉ベイホテル第一
株式会社アーバンクロス
小倉北区浅野2-17-31



歯科(一般)・歯科口腔外科・矯正歯科・小児歯科

矢野歯科医院

YANO DENTAL CLINIC

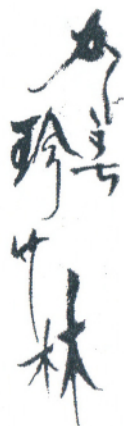
八幡西区熊手2丁目4-25 かまやビル2F

MANHATTAN PALMS

小倉北区鍛冶町1-5-19
山内パークアベニュー1F

DOUBLE SOUL

小倉北区魚町1-1-8 KRISSビルB1



小倉北区鍛冶町1-2-9

あきみつ歯科医院

門司区戸ノ上2丁目2-15

医療法人 藤誠会
後藤クリニック

戸畑区千防一丁目1-20-101

有限
会社 インテリア ライフ

門司区永黒2丁目9-22

AROMA CRYSTALLIZE
クリスタライズ



<http://crystallize.jp>

AROMA SHIELD™
100% Pure Therapeutic-grade Essential Oils

協力 (敬称略)

発行 / Angels Swing
HP / <http://angels-swing.com>
連絡先 / info@angels-swing.com

寄稿 / 出口隆・笹本妙子
寄稿・一部翻訳 / 山本昭生

資料提供 / 工藤洋三

写真撮影 / 木寺一路 (Fu.) <http://www.famousundergrounds.com>

表紙: 世界平和パゴダ (表) メモリアルクロス (裏)

発行日 / 2013年2月10日
企画・編集 / 白石昌子

 Angels Swing

